お盆もって フードコートできょろきょろ

で、幻滅。
現代版《百年の恋も一時に冷める》の代表例、巷ではこれを
－蛙化現象－と呼ぶそうだ。

余白なしの 対人関係。そんな 0か100かの世界は、
かたや 自分本位の先鋭化を生み、
かたや 相手本位の先鋭化を生む。

「お～い！こっちこっち！」「ごめんごめん、お待たせ！」
これくらいでちょうどいい。

蛙化現象：グリム童話『カエルの王様』が呼称の由来とされる

Vo.40

和而不同

紫陽花も見頃のピークを過ぎ、町通りでは【氷旗】がそよぐ頃合いとなった▼甲子園の予選が全国で繰り広げられている。諸般の制限が緩和されつつある中での今大会。ブラスバンドの響き彩る熱狂が八月を飾るのだろう▼そんな高校野球界において『脱・丸刈り』が進んでいるそうだ。高野連実施の調査によれば、今や加盟校の内およそ四分の三が頭髪を「自由化」。ちなみに五年前はその真逆であった▼「髪を伸ばしているチームには負けるものか」と息巻いていたのは、《高校球児は丸刈りであるべき》という価値観が基層意識に根付いていたからであろう。環境は入れ替わりつつある。坊主頭の彼らは今後どう描かれていくのだろうか▼『こうであるべき』と固執する姿勢が、十把一絡げに悪いワケではない。例えば何かと対峙する局面では、むしろ肝要だろう。しかし、確固たる芯あるゆえの懸念もそこに潜む▼『こうであるべき』は、ともすれば『これ（だけ）が正しいことであるーだからあなたもそうすべきー』という〝圧迫的主張〟にも繋がりかねない。これについては、よくよく案じる必要がありそうだ▼果たして同調さえすればそれで是なのか。肚（はら）の据わりは、あくまで自己の管轄ではなかったか。

きっかけ感話
【 超 短 編 】

若院コラム

私たちは「実際に」どれくらい個性的であろうか。
私たちは本当に、社会的に共有された規範の暴力をはねのけることができるほどのしっかりとした「自分」というものを持っているだろうか。

岸 政彦 氏
『 断片的なものの社会学 』
朝日出版社.2015

WASHITE DOUZEZU

まるごとココから